

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



[特集1] 学長スペシャル鼎談

先進的な意見取り入れ
地域貢献できる大学に

vol.
shimadai

46

2020.10

[特集2] 活躍する島大生

特集1 学長スペシャル鼎談

先進的な意見を取り入れ 地域貢献できる大学に



vol. 46 CONTENTS

■留学生・留学体験紹介	11
■島根大学の研究・地域貢献事業紹介	
①法文学部 宮本 恭子 教授	13
②医学部 和足 孝之 助教	15
③生物資源科学部 松本 敏一 教授	17

■社会で活躍する卒業生	19
■しまだい便り	21
■しまだい's サークル	24
■島根大学支援基金より	25
■読者プレゼント	25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

高等教育のグローバル化や少子高齢化、デジタル化などを背景に、大学教育に求められるニーズは様変わりしつつあります。本学アドバイザーで「一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム」代表理事の岩本悠氏と、さぎの湯温泉旅館「竹葉」の女将、小幡美香氏、服部泰直学長が今後の人財育成について鼎談しました。

服部泰直学長（以下学長）

大学は今、地域の一部となって地域貢献する役割が求められています。しかし学内の教職員だけでは困難です。地域で実践されている方々に先進的なアドバイスやご提案を頂こうと、アドバイザー制度を新設しました。

各地でまちづくりや人づくりを実践してきた岩本さんと、旅館の3代目女将として経営手腕を発揮する小幡さんは、いずれも全国区で活躍されているピカイチの方です。お二人の力を借り

りて、学問や研究と、実践の場に存在するかい離を縮めていければと考えています。

「あるものを生かす」再発見した価値を発信

小幡美香氏（以下小幡）

安来市の老舗旅館に嫁いで24年目になります。当初の危機的な経営状況を脱するため、まず取り組んだのが、自社の魅力の再発見でした。次にホームページを作つて全国に情報発信。幼かつた娘と一緒に、ひと肌脱いだパンフレットを作つたり、ブログを

こまめに更新したりして旅館を身近に感じてもらうよう努めました。地域密着旅館として、地域の宝を丁寧に発信してきたことが、今につながっていると実感しています。

岩本悠氏（以下岩本）

海士町にIターンした13年前、島前で唯一の高校が生徒数の減少で廃校の危機になりました。まず取り組んだのが学校と地域の連携・協働です。地域の多様な人々を教育現場に取り込み、対話を重ねて地域と学校のビジョンを一緒に考えていきました。地域をフィールドに、課題解決の過程で学べるスタイルも導入。地域の財産を知り、それらを生かすことが、地域の魅力化につながつていったのです。

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai
広報しまだい
SHIMANE UNIVERSITY
2020.10 vol.46

[特集1]

学長スペシャル鼎談 学長×島根大学アドバイザー 01

[特集2]

特別副専攻プログラム 05

[特集3]

活躍する島大生 07

大切なものを守るために 変化する勇気が必要

学長

逆境から抜け出すためには変化も避けられません。変わることへの不安はありませんでしたか。

岩本

祭りや文化など、地域には変えたくないものがたくさんあります。しかしそれらを残すためには、変えてもいい部分は変えていく必要があります。変えたくない大切な価値は、当たり前過ぎて見えなくなっていることも少なくありません。対話を通して価値を浮きぼりにし、失わないためにアプローチを変えることで、新しい魅力に再生していくのです。



講義で進行役を務める岩本氏

学長 新型コロナウイルスの感染拡大で、前期の授業はすべてオンラインにするなど大学にも激変な

コロナが浮き彫りにした
リアルの価値の大きさ

でなくなりつつあることも少なくあります。変化は正直怖いです。しかし活動に共鳴し、成功と共に喜んで下さる地域の方々や、共に頑張っている全国の同業者の存在が、変化する勇気につながりました。

小幡

従来の旅館の女将は、「中で待つ」というのが主流のスタイルでした。伝統やつながりを重んじる地域や業種であるにも関わらず、女将自ら積極的に営業し、どじょうすくい踊りのパフォーマンスまで

行うことに逆風が吹いたこともあります。変化は正直怖いです。しかし活動に共鳴し、成功と共に喜んで下さる地域の方々や、共に頑張っている全国の同業者の存在が、変化する勇気につながりました。

安来駅で観光客を出迎える小幡氏

小幡 美香

島根県生まれ。さざのゆ温泉旅館「竹葉」の3代目女将。島根の伝統芸能「安来節どじょうすくい踊り」一宇川流准師範。名物女将「どじょうすくい女将」として、「しまね観光PR大使」も務める。

小幡 美香

島根県生まれ。さざのゆ温泉旅館「竹葉」の3代目女将。島根の伝統芸能「安来節どじょうすくい踊り」一宇川流准師範。名物女将「どじょうすくい女将」として、「しまね観光PR大使」も務める。



服部 泰直

長野県生まれ。島根大学総合理工学部長などを経て2015年4月から現職。専門は位相数学。松本県ヶ丘高校(長野県)時代はサッカーチームで活躍し、国体出場経験もあり。



岩本 悠

東京都生まれ。学生時代に20か国の地域開発の現場を巡り、その体験学習記『留学日記』を出版。2007年より隠岐島前高校教育魅力化プロジェクトに従事。2015年より島根県の教育魅力化特命官として従事。



小幡 美香

島根県生まれ。さざのゆ温泉旅館「竹葉」の3代目女将。島根の伝統芸能「安来節どじょうすくい踊り」一宇川流准師範。名物女将「どじょうすくい女将」として、「しまね観光PR大使」も務める。



ことを味わえることの価値が上がったかもしません。

岩本 オンラインで得られるのは知識と情報。心が震えたり、鳥肌が立つたりするような感覚は味わいにくい。全身を使った深い学びは二次元では難しいのです。両方をうまく使うことの重要性をこの度改めて痛感しました。

新たな教育プログラムで人財育成に力を注ぐ

学長 経験豊かなお二人にご助言を頂き、さまざまな教育プログラムをスタートさせています。

岩本 昨年度まで5年間実施し

た島大の履修証明プログラム「地域・教育コーディネーター育成プログラム」では、行政職員や教員、民間企業のビジネスマンなど30都道府県の70人以上が参加しました。学びを生かし、人を育てる側に転じた方も数多くおられます。

今年度募集した「地域教育魅力化コーディネーター育成コース」には、定員の倍以上の応募がありました。社会の多様な主体と連携・協働して、人づくりや地域づくりを推進する専門人材「社会

教育士」を育てる国内第一号の養成機関となります。オンラインとオフラインをハイブリッドさせたコーディネーター育成プログラムの知見を生かし、両者を併用して「人を育てる」専門人材を育てていく考えです。

小幡 自社の強みを再発見して経営してきた経験をもとに、今秋からスタートする副専攻プログラム観光コースでは、島大の強みや島根県の魅力を再発見することからスタートさせる予定です。学内の先生方と一緒に、専門性の高い観光を考えていければと思っています。

岩本 今後リカレント教育は避けて通れません。知見のある大学だからこそ、地域や企業で人を育てる人材を育てていけるはずです。

学長 今後の大学の発展には、地域の方々に深く関わって頂き、足らないリソースを見つけて変化していくことが欠かせません。パワフルなお二人の存在は、外部から優秀な力をお借りして発展していくモデルケースになると考えていました。

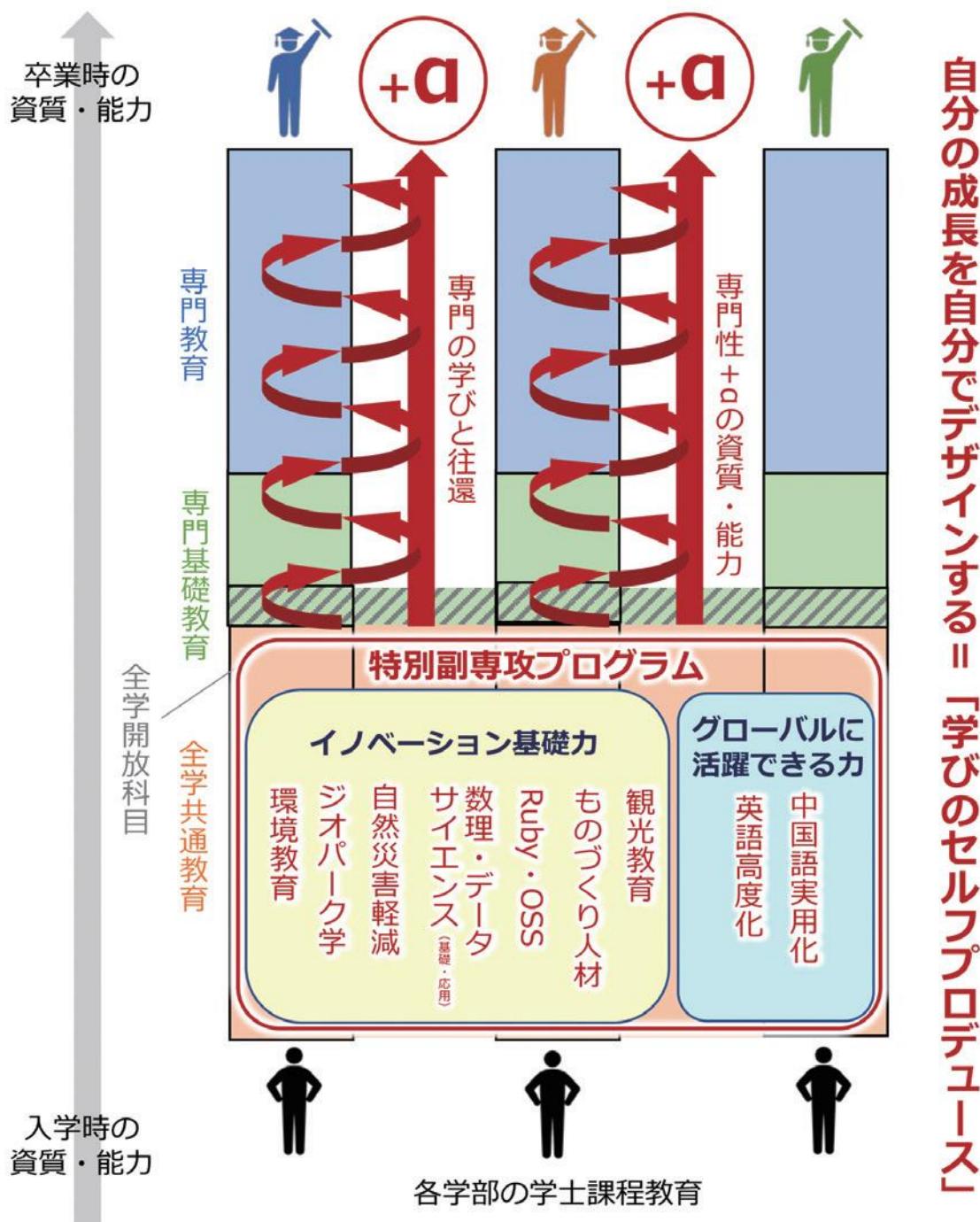
特別副専攻プログラム

社会で活躍するための実践的な学び

島根大学では、学生自身がより専門分野を深めたり、視野を広げることで、将来社会で活躍できるよう、実践性の高い教育科目を「特別副専攻プログラム」として、それぞれ体系づけられた10種類のプログラムを用意しています。

多用な目的に応じた 学びの機会を提供する

教養科目を中心に構成される特別副専攻プログラムは、学士課程（専門教育）に「プラスαの学び」を得ること、教養科目などを選択する際の指針とすることで、多様な学びの機会を提供することを目的に開設しています。自分の専門とは異なる分野の視点を得たり、自己の将来や関心のある課題解決



VOICE

「英語高度化プログラム」を履修

世界的な視点で物事を考える力

アメリカへの交換留学を控えていた時に、新しく「英語高度化プログラム」が設立されることを知り、留学準備の一貫で受講を決めました。基礎的な英語力向上を目的としたコンテンツだけではなく、「英語はコミュニケーションツールであり、多角的な角度から物事を捉え、英語で考えること」を学び、実践する機会がたくさんありました。

現在の職場では、対代理店のプロダクトや広告運用のサポートなどを行っています。代理店とのやりとりは日本語ですが、社内の他の部署とのやりとりや社内システムは全て英語なので、常に英語が必要とされる環境です。また、会社を上げて世界情勢にとても敏感で、会社全体で考え、会社としていかに社会に貢献できるか、教育プログラムや自己主張発信の場が頻繁にあります。副専攻や留学で培った英語はもちろん、グローバル社会で活躍するために必要な“視野”がとても役立っています。

Indeed Japan 株式会社
(法文学部法経学科
2016年卒業)

金田 真依さん



「環境教育プログラム」、「ジオパーク学プログラム」を履修

他分野を知り、選択肢が広がる

1年前期に副専攻プログラムのことを知り、当時興味のあった分野と重なる部分が多く、また、島根大学学生EMS委員会にも所属していたため、受講に至りました。特に力を入れていた環境教育プログラムでは、環境教育に関わる論文査読や意見交換、討論等の他に、実際に地域へ出て野外活動を行う機会もありました。私は持田で農業をしている住民グループの方々と一緒に、田の草刈りや、田の脇に植えてあるマコモを利用した手芸ワークショップを行い、活動後の達成感はひとしおでした。

副専攻は、専門以外の分野に興味を持ち、知識・発見を得られることに大きな意義があると思います。現在の職場は、大学時代の自分の専攻分野(地理学)の関係ではなく、副専攻プログラムの一つである環境に関わる会社です。副専攻プログラムを受講していたからこそ、このような選択肢があり、今の自分があるのだと思います。

共和化工株式会社名古屋支店
(法文学部社会文化学科
2019年卒業)

小木曾 博幸さん



に資するスキルを獲得できるよう、学生の積極的な登録を促しています。5月時点で延べ790名がこのプログラムに取り組み、今年から「観光教育プログラム」を新設し、学びの選択肢がより広がりました。

きる「イノベーション基礎力」。2つ目は、異文化への理解力を深め、外国に行っても物おじせずに行動できる「グローバルに活躍できる力」です。いずれのプログラムも、「自分の成長を自分でデザインする力」を身につけてほしいという思いがあります。

実践的な学びを活用して
社会や世界に貢献する

現代社会は、今回の新型コ

ロナウイルス感染症への対応に代表されるように、社会の変革が非常に激しく、予測不可能な時代に突入しています。これから時代に求められるのは、自分の専門分野にとどまらない「多元的な理解力」「複合的な専門知識」「幅広い視野」であり、それを実現するための「柔軟な発想力、応用力」や「総合的な理解力」を育成することが求められます。これらのプログラムを通して学ぶこと

とは、学生が所属する学部の専門分野で深く学んだことを、実際の社会でどのように活用するかを実践的に学ぶことになります。今後も、さらにプログラムの新規開発によつて選択肢を増やし、質を高めることで挑戦する学生を増やすことで、さらに体系的な学びの機会が創出できるよう、プログラムの融合や統合も行つていき、未来を担い、生涯活躍できる人材を育成していきます。

特集3

活躍する島大生

南極観測隊として
南極大陸へ！



総合理工学研究科

地球科学・地球環境コース博士後期課程 2年

佐々木 聰史さん

貝形虫の化石から
南極の古環境を復元



貝形虫研究が評価され
採泥チームとして南極へ

日本の37個分の面積を持つ南極大陸。この大陸の気象や地質、生物調査などを行うため、日本が派遣しているのが南極観測隊です。大学院総合理工学研究科の佐々木聰史さんは、第61次南極観測隊夏隊の同行者に選ばれました。南極地域観測事業に山陰両県の大学院生が選ばれるのは今回が初めてです。

佐々木さんの研究対象は、ウミホタルの仲間である“貝形虫”的化石です。水場に生息する貝形虫の化石は、当時の環境を知る手がかりになるものだといいます。「今は陸の場所でも、地層から貝形虫が見つかれば、そこは昔海だったことが分かるんです。昔の環境を復元することは、今後の環境変動予測をする上でも大いに役立ちます」。これまで日本近海を対象に、研究を行っていましたが、学会等での発表を通じてこれまでの研究が評価され、南極観測隊への参加が実現しました。

昨年11月27日に日本を出発、オーストラリアを経由して昭和基地へ向かいました。今回はしらせ

日頃から専門的な研究や地域活動等で活躍する学生たち。今回は、地域と世界、異なるフィールドで研究活動を行い、快挙を成し遂げた2名の学生を紹介します。



ラングホブデの避難小屋

南極大陸の沿岸にある露岩地帯・ラングホブデにて。南極大陸生活時に、ブリザードなどによって避難する際使用する避難小屋を確認する佐々木さん。今回の3週間の調査期間中、一度だけ悪天候になり、飛ばされたテントもあったのだとか。



ぬるめ池での表層堆積物採取

最終氷期以降の海面変化を明らかにする材料がたくさん見つかる可能性があるぬるめ池。ここでは、湖底の地形調査や、湖底堆積物の掘削、近くの海の海底地形の調査や、池の周辺の陸地の堆積物の採取を行いました。



しらせ船上での初めての調査！

しらせ船上から、柱状堆積物試料採取の様子。木下式グラブ採泥器と大型グラビティコアーラーという2種類の方法で採泥を実施。採泥時に機械の方に泥を早速顕微鏡で見たところ、微化石がはっきりと確認できました。



世界トップクラスの能力！海上自衛隊の
砕氷艦「しらせ」

砕氷、輸送、ヘリコプター運用、
観測と、マルチな役割を担う。

国立極地研究所提供

の船上でも調査を実施し、佐々木さんら採泥チーム4人は2種類の採泥方法で試料を採取しました。「しらせを使っての採泥は今回が初めての試み。そのメンバーに選ばれたことが何よりうれしかった」と笑顔を見せます。

昭和基地到着後、採泥チームは基地からヘリで10分ほど離れた、ぬるめ池を拠点に、湖底・海底の調査、海底堆積物の採取を行いました。「南極は寒いと思われがちですが、夏の時期だったので昼間でマイナス5度くらい。松江の冬よりも少し寒いくらいでした」。天候が悪かった半日を除いて、とにかく試料収集の日々が続きました。

帰国後、南極で採取したサンプルが佐々木さんの手元にも届きはじめています。

「世界的に見ても南極大陸の貝形虫研究は少ないのですが、新たな発見が見つかる可能性が高いと思われます。今後の分析に期待ですね」。本格的な分析はこれからですが、見据える先は卒業後です。「南極でやり残したことがあるので、もう一度、観測隊として南極へ行きたい」。数年後に、南極での佐々木さんの活躍を見られる日が来るかもしれません。





設計コンテストで
日本一に輝く!



自然科学研究科 建築デザイン学コース1年 岡野 元哉 さん

新たな観光ルートの創出も
岩海苔と神塩の生産観光建築を提案



岩海苔と神塩の生産観光施設

漁港の既存岸壁を土台とした3階建ての木造建築の外観パース。岩海苔と神塩の生産・加工・観光の3要素を複合的に建築に落とし込みました。



関連する様々な場所へ調査に!

岩海苔の栽培場所や塩の製塩所、周辺の敷地を調査し、建築計画に落とし込んでいきました。建築により厚みをもたせるため、地域の歴史を知ることも欠かせない要素です。

設計に取り組み、「せんだいデザインリーグ2020卒業設計日本一決定戦」の代替企画である「SDL・Re2020」で日本一に輝きました。

設計にあたって岡野さんが注目したのが食文化です。「地域の特産は、その土地の気候や風土があつてこそ。食文化と絡めた建築なら、そこにしかない個性が出せると考えました」。いくつかの候補地の中から選んだのは出雲市大社町。島根半島では冬には岩海苔、夏には神塩の生産が古くから行われており、その生産と観光を結びつけるような施設を構想しました。

出雲大社西側にある稻佐の浜近くの漁港を敷地に、現地調査

生産と観光が共存する構造

施設1階の内観パース。塩を作るためのせんどう窯と同じ空間にレストランを組み込み、生産加工の様子を見ながら地元料理が食べられるように設計しました。

「建築の分野で、山陰がより元気になるような、何か面白いことをしたい」。卒業設計を通じて、自身の建築に対する考え方の基礎を見つけられたといいう岡野さん。4月から大学院に進学し、現在は鳥取県の日南町を対象に研究を進めています。多彩なアイディアが、山陰でどのように形になっていくのか、今後に期待がかかります。

研究室で模型を作成

模型の作成にあたっては、研究室の後輩もサポート。岩海苔栽培棚に本物の海苔を貼り付けたり、素材感を出すためにセメントを打ったり、細部にこだわりました。

出雲の食文化に注目 地方でしかできない建築

のほか、漁業関係者や生産者、周辺の飲食店にもヒアリングを実施。隠岐の塩生産施設にも足を運び、施設の機能や動線などを確認しました。調査をもとに設計を開始し、岩海苔と神塩の生産加工においては、共有できる部分は機能を集約し、そこにレストランやショップなど、観光の要素を付与していきました。さらに、出雲大社から生産施設までのルート上に、塩の停留所や海苔の休憩所などを計画。「従来の出雲大社から神門通りにかけての縦の観光ルートだけでなく、稻佐の浜に向けての横のルートも作りたい」と向けての横のルートも作りたいと思つたんです」。地域に広がりを持たせ、新たな観光ルートの創出にもつながる提案になりました。

「建築の分野で、山陰がより元気になるような、何か面白いことをしたい」。卒業設計を通じて、自身の建築に対する考え方の基礎を見つけられたといいう岡野さん。4月から大学院に進学し、現在は鳥取県の日南町を対象に研究を進めています。多彩なアイディアが、山陰でどのように形になっていくのか、今後に期待がかかります。

国境をこえてチャレンジする学生たち

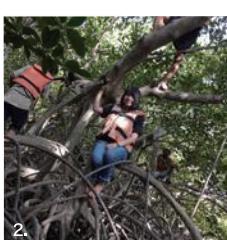
留学生・留学体験紹介

Shimane \bowtie World

現在島根大学では、世界29か国・地域、103の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。



1. ベナンの子どもたちと一緒に。
2. セネガル滞在中に観光で訪れたマングローブ林でのひとコマ。



小学生の頃、シュバイツァー博士の影響でアフリカに興味を持ち、大学では、アフリカで広く使われる言語の一つであるフランス語を専攻しました。夏休みに2度アフリカへ短期渡航しましたが、もつと実践的な活動がしたいと1年休学し、インターンシップに行きました。最初の4ヶ月はセネガルの日本食レストランで、7ヶ月はベナンの農場にお世話になりました。ベナンでは出稼ぎに来ていたベナン人の家族と一緒に生活しましたが、生活水準や価値観の違いが顕著で、日本の外に出ると色々な世界があると気づかされました。また、現地の人とは仲良くなるほど深い話ができ、学びも多かったです。実際の生活環境に入り、生の声を聞けることが留学の醍醐味だと思います。

**現地で直接顔を合わせて話す
留学では得られない経験**



中国（南京林業大学）

出身



チュウ・ギョク
仲玉さん

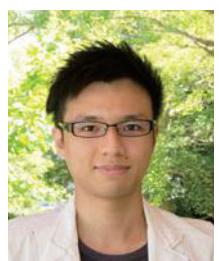
(教育学部 科目等履修生)

1.大学の先生の自宅にて、着物の着て抹茶をいただく体験をしたときの一コマ。 2.生け花教室では実際に生け花を体験しました。仲さんが生けた作品とともに。

日本のアニメがきっかけで日本文化や日本語に興味を持ち、もつと語学力をあげたいと思い、留学を決意しました。授業で習った日本語と実際の話し言葉はかなり違っていて、最初は会話に苦労しましたが、他国の留学生との寮での共同生活や、交流会を通じて仲良くなつた日本人学生との勉強会などを通じて、日本語が上達しました。

留学期間中は、先生からの誘いで様々なイベントに参加しましたが、松江のお茶会や華道教室、松江城のすす払いなど、日本人の生活に根ざした文化に触れられたことが一番の思い出です。島根県に来る前は、田舎なのがかなというイメージでしたが、語学力をつけるには十分な環境で、地域ならではの文化も体験でき、島根大学へ来てよかったですと実感しています。

地域の文化も多く体験 充実した島根での生活



アーロン・リー

Aaron Lee さん
(自然科学研究科
環境システム科学専攻 2年)

1.大学生協主催のディキャンプイベントで、1泊2日のキャンプを大山で行いました。2.邑南町交流会に参加した際の一コマ。留学生と日本人学生でカラオケしました。

日本人の生活に根ざした文化に触れられたことが一番の思い出です。島根県に来る前は、田舎なのがかなというイメージでしたが、語学力をつけるには十分な環境で、地域ならではの文化も体験でき、島根大学へ来てよかったですと実感しています。

下水処理技術を研究 島根での就職も視野に



香港

出身

香港の大学で指導を受けていた日本人の先生が島根大学に赴任され、一緒に研究をしてみないかと声をかけてもらつたことがきっかけで島根大学の大学院へ入学しました。入学当初、日本語はあまりできませんでしたが、大学院の授業は英語なので、内容は問題なく理解できました。現在は、下水処理において、効率よく処理するための技術について様々な方法で実験し、結果を論文にまとめているところです。島根大学は、香港の大学と比べると規模は小さいですが、先生方や周りの学生がやさしく親切で、学びの環境としては満足しています。入学当初に比べると日本語がかなり上達しましたが、もうとうまくなつて将来は日本で働けたらと考えています。特に島根は住み心地がよいので、島根での就職も視野に入っています。



出身

日常の暮らしと連携した 予防的な社会保障で 早めのサポートを



支援が必要な人に
きめ細かい情報を

日本国憲法第25条は、国民に健康で文化的な生活を営む権利があることと、国に社会福祉や社会保障、公衆衛生の向上と増進に努める義務があることを規定しています。この条文に基づいて整備されたのが、日本の社会保障制度です。近年、超高齢化や人口減少が深刻化し、社会保障の重要性が一層高まる一方、子どもの貧困やワーカーライフバランスなど従来にはなかったテーマも頻出しています。「従来は、困っている人に支援することが社会保障とされてきました。しかし、それでは既に、現場でも財政的にも追いかなくなっています。



PROFILE

法文学部 法経学科
宮本 恭子 教授

保健師や助産師などの資格を生かし、民間企業で10年以上従業員の健康管理を担っていました。自身の入院を機に、現場では介護と医療の連携だけでなく、国民経済全体を踏まえた政策的、制度的アプローチの必要性も実感。経験を生かした視野で社会保障を考えています。

病気やけが、障がい、老化など、生きていく上で誰しもが抱えるリスクに対し、生活を支えるセーフティネットが社会保障制度です。法経学科の宮本恭子教授は、福祉分野に加え、少子化や貧困対策、外国人との共生などさまざまな社会保障の現状と課題を、科学的スピーディンスを示しながら発信しています。



2



4



3



1

1.雲南市「ほほ笑みサロン」にて、学生が地域住民と交流しながら、居場所の機能、役割、地域の高齢者の健康、介護、生活に居場所が与える貢献についてヒアリング。2.大田市長久地区での、県の受託事業の調査結果報告の様子。3.2016年、ドイツ連邦法務省高官との情報交換、ヒアリング調査の様子。4.邑南町の子育て支援センターを訪問、町の子育て支援や移住の動機などについてヒアリング調査をしながら、親子と交流する学生たち。

自然に支援にたどりつけるようなまちづくりも大切です。宮本教授が県内の総合病院と行った共同研究では、早期に病院に行けなかつ

地域社会をベースに 分野を超えた融合を

これからは予防的な社会保障にシフトしていくべきです」と宮本教授は提言します。医療や介護の世界では進みつつある「予防」という概念を、社会保障の分野でも取り入れていく必要があるというのです。

その対策の一つとして宮本教授が挙げるのが、子どもの貧困対策です。人生の早い段階でサポーントを防ぐのです。しかし制度や環境を整えるだけでは十分ではありません。「支援が必要な人にきちんと情報が届いていないのが現状です。誰かと一緒にご飯を食べる楽しみを経験したことがない子どもに、子ども食堂を紹介しても足が向きません。声を掛け、手を差し伸べ、一緒にテーブルにつくなど細やかなサポートが重要なのです」。

たために救急搬送された患者の多くが高齢者でした。貧困を理由に受診できなかつたのではなく、交通の不便や付き添う人がいらないなどアクセスに課題があつたのです。「早い段階で医療につなげることができれば重症化することはありませんでした。社会を支える若者が減る中、暮らしの中で自然と地域住民がふれあえるような仕掛けを作つていければ、全世代を対象にした社会保障の予防が可能だと思います」。

宮本教授は山陰を中心にフューリドワークを重ねる一方、世界で初めて社会保障を成立させたドイツへも毎年調査に訪れていました。「日本製の介護ロボットが現場に数多く導入されているほか、認知症サポートセンターのように高齢者を地域で支えようという日本のスタイルにも関心が高まっています。高齢化率が世界トップで、ハードでもソフトでも先進的な取り組みを行つている日本は、もつと世界に情報発信していくべきです」。各地での現地調査を踏まえ、宮本教授が今後の目標に掲げるのが、地域社会や企業と社会保障の連携です。「制度や政策だけでなく、地域をベースに分野を超えた融合が大切です」。

医学部

診断エラーの要因を解析 環境やシステム整えて 医療現場の質向上を

「診断エラー」というキーワードをご存知でしょうか。個人の不注意や不誠実ではなく、システムや環境が原因で、患者の健康状態について正確で適時な解釈が行われないことがあります。卒後臨床研修センターの和足孝之助教は、複雑な診断エラーの要因を解析し、医療の質向上を目指しています。

誤った診断を招く 思い込みや環境

よく耳にする「誤診」と、「診断エラー」は何が違うのでしょうか。「言葉の通り、誤診は診断の誤りです。でもその誤つてしまつた要因は、必ずしも個人に責任があるものだけとは限りません」と和足助教。「たとえば食事や睡眠をきちんと取れずに36時間働き続ける医者が適切な診断を行えるでしょうか。インフルエンザが流行している時期に咳や鼻水、熱などの症状があつて、地域の診療所でインフルエンザと診断された若い患者が来た時に、すぐに他の病気を疑えるでしょうか。医者が置かれている環境やシステム、直感的な判

PROFILE

医学部 卒後臨床研修センター 和足 孝之 助教

年間14000件も救急搬送がある県外の病院で多くの患者さんに接し、図らずも数多くの診断エラーをした辛い経験が、研究による救命を目指すきっかけでした。現在先進的に研究を行っているハーバード大学大学院にも籍を置き、医療の質改善についてさらなる学びを深めています。



バンクから見た診断エラーの解析

of medical claims of Diagnostic error

診断エラー関連 (n=709)	非診断エラー (n=1093)	P-value
197(27.8%)	300(27.4%)	0.875
165(23.3%)	189(17.3%)	0.002
244(34.4%)	364(33.3%)	0.626
93(13.1%)	228(20.9%)	<0.001
<hr/>		
218(30.7%)	150(13.7%)	<0.001
184(26.0%)	324(29.6%)	0.089
86(12.1%)	23(2.1%)	<0.001
207(29.2%)	575 (52.6%)	<0.001

K, et al. (2020) Factors and impact of physicians' diagnostic errors in malpractice claims in Japan

判例データ

Analysis



2



4



3

施設の規模
診療所/クリニック
小規模病院
中規模病院
大学病院/大規模市中病院
訴訟原因事例の当該場所
外来
病棟
救急外来
処置関連 (オペ室, 透析, 処置室, 内視鏡etc)

Watari T, Tokuda Y, Mitsuhashi S, Otuki K, Kono

1

1. 判例データベースから全国医療訴訟判例に注目。2212件の中から重複するものや記載不良、無関係のものを除く1802件を対象に解析を行った。2. ハーバード大学の同級生とともに。3. 全国各地のセミナーや研修会で、診断エラーに関する講演を行う。

断や思い込みが誤った診断を招く可能性は少なくなく、豊富な知識や経験、情報が逆にエラーにつながることもあるのです」。

和足助教は、医療過誤や誤診などに関係する医療訴訟判例1802件を詳しく調べた結果、約20%が診断エラーに基づいていると解析。診断のついてない患者を診る必要が多い内科や外科などの診療科、小規模病院、救急外来のセッティングで有意に診断エラー関連訴訟に発展する要因であることが明らかになりました(図1)。「中小規模の病院では専門医の少なさや、必要な機器の不足が、病棟では“安全”というバイアスがかかっていることが要因だと思われます。医師はそれぞれ専門分野に特化しており、救急外来では総合的に患者を診ることができます」と指摘。アメリカでは、年間5%の患者が診断エラーになっています」と指摘。アメリカでは、年間5%の患者が診断エラーで亡くなっているという調査結果もあり、和足助教は「日本でも少なくとも年間1万人以上が診断エラーで命を落としている」と推測します。

チームでの原因分析や初期教育の充実を

診断エラーを減らすためにはどうすれば良いのでしょうか。和足助教は「まず大事なことは、エラーは必ず起こるという認識を持つことで、エラーを認め、リフレクションすることが次のセーフティにつながるのです」と断言。「医師自らチームで原因分析を行い、認知バイアスに陥りやすいポイントを知っておくことや、救急現場システムの安全性確保、プライマリー教育の充実も不可欠です」と続けます。

和足助教は2016年に島根大学に赴任して以来、医療教育の改革も積極的に実施しています。安全性を確保した上で、医学生の時から患者を診る実践的な教育を進める一方、大学教員が学生に対しても適正な試験を行っているか否かを評価する委員会などにも参加。「研究も大事ですが、いい医者を育てることは地域の医療の質を上げることにつながります。学生には無限の可能性があります。彼らの高いモチベーションをぶつけられるような教育の場にしていくべきです」。

温泉の熱を活用して 島根で熱帯果樹を栽培 観光や産業の振興図る



島大農場の加温施設で 6種類を試験的に栽培

冬の寒さが厳しい山陰で熱帯果樹栽培という一見突拍子もないような研究は、地熱を活用したまちづくりを狙う松江市からの依頼がきっかけでした。地熱とは、地球内部で生成される熱のこと。この地熱によって暖められた地下水がわき出でてきたもののうち、温泉法などで定義されている成分を満たしたもののが温泉と呼ばれています。

一方、国内での熱帯果樹栽培は、温暖な気候の沖縄や九州南部のほか本州でも行われていますが、加温コストがかかるのがネックでした。松本教授は、「温泉熱を活用すればコストを下げる、採算

マンゴーやパパイヤのような熱帯果樹は、冬にスノータイヤが欠かせない気候の山陰地方とは縁遠いイメージです。しかし農林生産学科の松本敏一教授は、県内に豊富にある温泉を利用した栽培方法を研究。スイーツやお茶などの加工食品も試作を重ね、温泉地での観光振興も目指しています。

PROFILE

生物資源科学部 農林生産学科 松本 敏一 教授

大学卒業後、島根県の農業普及員を経て農業試験場で24年間、バイオテクノロジーや果樹栽培、食品加工などの分野で研究を重ねてきました。異動が多くてばやいたこともありますでしたが、すべての経験が今生きています。好きな研究で地域に貢献できるのはうれしいことです。





1.島根大学本庄総合農場内にある熱帯果樹栽培のビニールハウス。収穫間近のマンゴーは、実が落ちて傷つかないようにネットで保護してある。2.松江市の「ホットランドやくも」に設置したヤシ。3.熱帯果樹の葉を活用した熱帯果樹茶葉。東京で開催されたアグリビジネス創出フェアへの出展時にも好評だったそう。4.学生らと試作したマンゴーいろいろ。5.バナナ・マンゴー・パパイヤ・パインアップルを使ったトロピカルピザ。

特にパパイヤは大きくなりましたが、外気温がマイナス6度まで下がった時は温度が維持できなかったことも。それでも枯れることなく、特にパパイヤは大きくなりました。温泉水でも十分できると確信しました」と松本教授。さらに「温泉施設などから出る廃湯をハウスの下に流し込み、床下暖房のような設備をセットで整えると一層効果があるかも」と構想をふくらませています。同市内の温泉プール施設「ホットランドやくも」では、館内でのヤシやバナナなどの熱帯植物の試験的栽培も実施、今後採光などに工夫して、一層の生育を促す予定です。

松本教授は、「シャインマスカットや西条柿など特産品の品質向上や、植物遺伝資源の超低温保存などにも尽力。地域とタッグを組んだ幅広い研究を続けています。

類の熱帯果樹の苗を植え付けたところ、順調に生育。一部の果樹はすでに収穫を終えました。「冬場でも10度以上に保てるよう設定したもののがつた時は温度が維持できなかつたことも。それでも枯れることなく、特にパパイヤは大きくなりました。温泉水でも十分できると確信しました」と松本教授。さらに「温泉施設などから出る廃湯をハウスの下に流し込み、床下暖房のような設備をセットで整えると一層効果があるかも」と構想をふくらませています。同市内の温泉プール施設「ホッ

も取れる。温泉地での熱帯果樹栽培は、観光客増加や産業振興にもつながるのでは」と松江市に提案、2022年度までの受託研究をスタートさせました。

島大本庄総合農場に、二重被覆した高さ約4メートルのビニールハウスを新設。周囲に熱交換機を付けた鉄製パイプを通して、ハウス内を加温させる設備を整えました。昨春、バナナやパパイヤ、マンゴーなど6種類の熱帯果樹の葉を植え付けたところ、順調に生育。一部の果樹はすでに収穫を終えました。「冬場でも10度以上に保てるよう設定したもののがつた時は温度が維持できなかつたことも。それでも枯れることなく、特にパパイヤは大きくなりました。温泉水でも十分できると確信しました」と松本教授。さらに「温泉施設などから出る廃湯をハウスの下に流し込み、床下暖房のような設備をセットで整えると一層効果があるかも」と構想をふくらませています。同市内の温泉プール施設「ホッ

柿の葉茶の研究経験もある松本教授は、熱帯果樹の葉を活用したお茶の可能性に着目、葉茶を試作しました。「6種類とも味や香り、色が違つておもしろかつたですね。バナナは甘く感じられ、パッションフルーツはブレンドした方がよさそに、いろいろやスマージー、トロピカルピザなどのスイーツも試作。

規格外品を有効活用 加工食品開発にも注力

規格外品を有効活用した加工食品の開発にも力を注いでいます。

柿の葉茶の研究経験もある松本教授は、熱帯果樹の葉を活用したお茶の可能性に着目、葉茶を試作しました。「6種類とも味や香り、色が違つておもしろかつたですね。バナナは甘く感じられ、パッション

フルーツはブレンドした方がよさそに、いろいろやスマージー、トロピカルピザなどのスイーツも試作。

規格外品の活用は農家の収入アップにつながります。温泉地での熱帯果樹観光園が実現すれば、お客様がもぎとった果樹を、旅館の板前に加工してもらえるような体験型観光も提案できることでは」。

松本教授は、「シャインマスカットや西条柿など特産品の品質向上や、植物遺伝資源の超低温保存などにも尽力。地域とタッグを組んだ幅広い研究を続けています。

社会で
活躍する

卒業生

A graduate of
Shimane University

No. 09

農業技術研究員

Profile

加古 哲也 さん

島根県農業技術センター
栽培研究部花き科主任研究員

愛知県出身。2004年3月に生物資源科学部農業生産学科(現:農林生産学科)を卒業。2006年に大学院生物資源科学研究科を修了。滋賀県で大手食品メーカーの植物研究部門に就職。その後転職し、2012年4月より島根県農業技術センターに勤務。現在は社会人学生として鳥取大学大学院連合農学研究科博士課程(島根大学配属)にも在籍。

卒業後も様々な分野で活躍する島OB・OG。その中から、山陰をライフルドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は、島根県農業技術センターで研究員を務める傍ら社会人学生として大学院にも在籍する加古さんに、現在の仕事内容やそこにあるまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

時代にマッチした
**栽培方法の研究や
新品種の開発を担う**

島根県の農業技術センターで花き科研究員として、鉢物を担当する加古哲也さん。県内の生産者がよいものを安定して栽培できるよう、栽培方法の研究や新品種の開発を行っています。国内最大規模の新品種コンテスト「ジャパンフラワーセレクション」の鉢物部門において、2012・2013年に「フラワー・オブ・ザ・イヤー」を受賞した島根オリジナルアジサイ「万華鏡」の栽培も、加古さんが研究開発に携わる仕事のひとつです。 加古さんの専門分野は温度の制御です。夏の猛暑は年々厳しさを増していますが、環境変動は花の生育にも大きな影響を及ぼしているのです。「例えば、クリスマスシーズンに人気のシクラメン。前年12月に種をまき、1年かけて育てるのですが、シクラメンは暑さに弱い。夏の夜、なかなか気温が下がらなくて寝苦しいことが近年増えていますよね。この気温が下がらないことで開花が遅れてしまっているんです。しかも、出荷が遅れて年をまたいでしまうと市場価格が半額

以下まで落ちてしまうこともあります」。こういった状況から、新しい時代にマッチした栽培方法の開発が急務だといいます。月に1、2回は県内の生産者の元へ足を運んで直接ヒアリングし、現場で何が必要とされているのか見極めます。また、現在のトレンドなども把握し、市場

センターには花のハウスが全19棟。区画ごとに異なる温度で管理されたシクラメンの生育状況をチェック。



に出回るまでの出口までを考えたうえで研究に反映させているそうです。この出口までを見て研究を行なう視点は、前職の食品メーカーでの経験が大きいといいます。

島根大学の大学院を卒業後、一度は大手食品メーカーに就職、研究員として海外を飛び回る忙しい日々を送っていましたが、周囲の人たちと協力して何かをやりたいという思いが強くなり、大学在学中にできた農業関係のネットワークを活かせる島根県での転職に至りました。

島根大学の大学院を卒業後、一度は大手食品メーカーに就職、研究員として海外を飛び回る忙しい日々を送っていましたが、周囲の人たちと協力して何かをやりたいという思いが強くなり、大学在学中にできた農業関係のネットワークを活かせる島根県での転職に至りました。生物資源の先生方の研究も、例えば出雲おろち大根や低カリウムメロンなど、研究が現場に繋がっている例も多いです。そういったのを見た前で見ながら学べるのってすごくいい環境だと思います」と実感を込めます。

研究が地域貢献に直結 リアルを体感できる

島根大学の学び

島根大学時代は、ブルーベリーの研究を行っていました。促成栽培に向く品種を調べるために、本庄農場のハウスで約20品種を栽培。「受粉に必要な蜂の種類によっても違うのかも?」と思って、温室内でいろんな蜂を飼つてみて、結構危ないハウスになつてしましましたね……」と笑います。大学での学びがそのまま現在の仕事に繋がっているそうで、「やっぱり植物管理の心構えは大学でしつかりと学んだので、今でも花がどうなつていて心配で、休みの日でも様子が気になってしまいます」。ま

理論と実践の往還で さらに視野を広げる 生産者目線の研究を

センターで国のプロジェクトにもかかわることが多い加古さん。そういう業務をこなす中で博士号の重要性を感じ、5年前から大学院で社会人学生として学んでいます。月に2回程度授業で島根大学へ通い、大学時代から馴染みのある先生方に指導を受けています。現在は論文執筆の真っ最中で、山陰の海岸や隠岐を中心に生息するトウテイランの研究を進めているところです。「授業では環境に関する話

た、院生時代に身についた実験計画の組み方は、何をどのように比較すればよいかを考える上で、現在も活かされているそうです。「地元に密着した学びが多いのも島大の特長。講義室での学びだけではなく、リアルに直結する研究ができるのはここならではだと思います。生物資源の先生方の研究も、例えば出雲おろち大根や低カリウムメロンなど、研究が現場に繋がっている例も多いです。そういったのを見た前で見ながら学べるのってすごくいい環境だと思います」と実感を込めます。



島根大学で研究の経過報告を行う加古さん。大学時代からお世話を担当教員の小林教授とともに。

しまだい便り

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から
大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

1

次世代たら協創センターを中心とした研究拠点を視察

北村内閣府地方創生担当大臣が来学



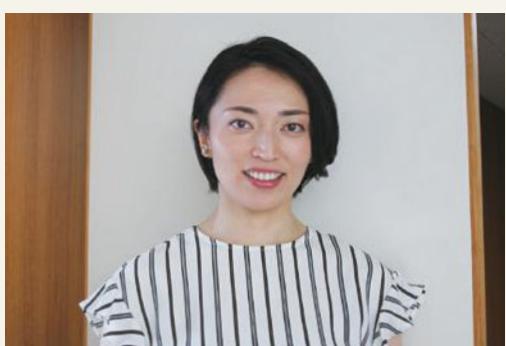
8月2日(日)、北村誠吾内閣府特命担当大臣が島根県を訪れ、視察の一環で本学に来学されました。島根大学には、先端金属素材の研究開発や高度専門人材の育成に取り組む、内閣府地方大・地域産業創生交付金事業「先端金属素材グローバル拠点の創出」INext Generation TATAARA Project」の視察を目的に訪問されたものです。視察では、新たな研究・開発拠点として建設中の「次世代たら協創センター」棟の視察の後、服部学長から人材育成を中心とした同事業での島根大学の取り組み、また、島根大学が今後展開していくSTEAM人材育成の取り組みについて説明し、意見交換が行われました。

2

放射線技術に関する日本最大の学会
放射線技術に関する日本最大の学会

大学院生が一つの賞を同時受賞

5月23日(土)～6月14日(日)にWEB開催された、第76回日本放射線技術学会総会学術大会において、自然科学研究科2年の清水翔太さんが、Silver Awardは約380演題の中から優秀な演題に対して、またExcellent Student Awardは、学生発表の中で、優れた演題に対して贈られるものです。



3

権威ある医学雑誌「JAMA Network Open」

JAMA(米国医師会雑誌)は、米国医師会によって刊行されている国際的な査読制の医学雑誌です。7月、医学部医学科6年河野香織さんの、日本の女性の社会進出を医療社会学的な観点から研究した論文がWEB雑誌「JAMA Network Open」に掲載されました。学生の論文がこのような権威ある医学雑誌に掲載されることは稀で、本学での学びが世界で開花していることは、本学の大きな誇りです。

新型コロナウイルスの影響で、
企業・団体・一般の方々から
支援の広がりを感じました。
(島根県鹿足郡・70代男性)

コロナへの取り組みは大変参考になりました。
今後も様々な対策等を紹介してください。
(広島県世羅郡・50代男性)

建築デザイン学科の学生が松江市長と懇談 「まちかどトーク」を実施

建築デザイン学科の学生が松江市長と懇談



松江市が実施している「まちかどトーク」では、松江市長と様々な活動団体のメンバーの交流の機会を設け、まちづくりのための意見交換を行っています。今回は島根大学において、美保関での古民家改修に取り組んでいる総合理工学部建築デザイン学科の学生たちとの意見交換が8月5日(水)に行われました。学生たちからは、古民家を改修することの目的や、これまでの作業内容、今後の地域活性化の計画などについての説明を行いました。それを受けた松浦市長からは、地域の歴史を学ぶことや地元の人々との交流の大切さのお話があり、その中から良いアイデアが生まれてくるのではないかといったアドバイスをいただきました。さらに、学生たちからは、伝統的な木造構法や土壁の良さ、職人さんの技術を伝承することの大切さなど、このプロジェクトでの作業や地元の人々との交流を通して学んだことについての報告があり、松浦市長からは、地域の歴史や文化をより深く学んでいくことで、新たなまちづくりに取り組んでいってほしいとの応援のメッセージをいただきました。



環境DNAを用いた新手法を開発 汲んだ水から魚を数える

島根大学エスチュアリー研究センター・南憲吏助教も参加している研究チームが、水中に含まれる生物由来のDNA（環境DNA）から海の生物の個体数を推定する新手法を提案しました。京都府舞鶴湾全域でマアジの個体数を推定し、環境DNAから海に生息する魚類の個体数推定を世界で初めて実証しました。水試料のみで個体数を把握できる可能性が示されたことにより、効率的な新技術の実現につながることが期待されます。



松江南高校SSH事業へ教員派遣 国際的に活躍する科学技術系人材を育成

今年度、文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定を受けた松江南高校へ、島根大学の教員が派遣されています。6月には次世代たら協創センター（NEXTA）専任の植木翔平助教や、NEXTA兼任教員で総合理工学部の笹井亮教授と北川裕之准教授が、「金属の変形と強度」等をテーマに、金属材料に関する授業を行いました。授業では実験計画の立て方など、研究を進めるためのアドバイスを行いました。

広報しまだい
vol.45に
寄せられた声をお届けします。

大学のコロナに対する対策など、細かく記載されていたので、保護者として安心しました。

(兵庫県加古川市・40代女性)

一時金に対する学生さんの声が聞けてよかったです。

今後も応援しています。

(島根県松江市・50代女性)

ダイバーシティ研究環境を実現するため キックオフシンポジウム開催

留学生が世界各地の米料理のレシピを紹介 「教えて!世界のコメ料理」ページ開設



7月27日(月)、「ダイバーシティ

研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」キックオフシンポジウム「ダイバーシティ研究環境実現に向けて―多様性を活かして、ひとり一人が輝く未来へ!―」をオンライン開催いたしました。当日は連携機関や地元企業、他大学など70名を超える参加者が集まりました。

はじめに本事業を遂行するにあたり、どのような課題があり、どのように立ち向かえば良いのかを考える機会として「日本の社会・組織

において、女性の活躍を阻むものとは?―無意識の偏見をなくすため

に―と題して東洋大学北村英哉教授に基調講演を行っていただきました。

その後、連携4機関(島根県立大

学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校、島根大学)による

ダイバーシティ事業の取り組み紹介と、パネルディスカッションを実施しました。今後、連携機関間では女性研究者支援のあり方について常に情報共有を行うこと、連携機関間での共同研究の促進による研究交流を活発化させていくことなどをについて合意しました。



大学国際交流センターは外国語教育センターと共同で、留学生の母國のおコメ料理を紹介するページを作成しました。ぜひご覧ください。

ス感染症の拡大により多くの学生が困窮する中、皆様からたくさんのおコメを寄附いただきました。その感謝の気持ちを少しでも皆様にお届けすることを目的に、島根

料理の紹介の動画はこちら
(<https://kokusai.shimane-u.ac.jp/withcorona/komeryori.html>)からご確認ください。QRコードからもご覧いただけます。



島大病院 ちょっと気になる 健康講座

Shimane University Hospital Lectures on Health

島根大学医学部附属病院では、一般的な病気、療養の注意点と工夫、高度な治療法などを、受診する患者さんに分かりやすく説明する「ちょっと気になる健康講座」を毎週木曜日11時から院内1階口ビーにて行っています。現在、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、休止しておりますが、動画で配信をしていますので、ぜひご覧ください。

ちょっと気になる健康講座は[こちら](https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/kenkoukouza_movie.html)
(https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/kenkoukouza_movie.html)からご確認ください。
QRコードからもご覧いただけます。



読者の声 Voice

広報しまだい
vol.45に
寄せられた声を
お届けします。

現在緑内障で谷戸先生にお世話になっており、広報に取り上げられ詳しく説明されていて本当に嬉しく思いました。
(島根県隠岐郡・70代女性)

学生支援のための地域の方々からの
お米や野菜の写真を見て、
有難い気持ちで一杯になりました。
(兵庫県神戸市・60代女性)

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス 無線通信 技術部



1. 活動は、無線だけでなく、サーバーやネットワークといつ今人気の分野まで幅広いそうです。無線通信を行うにはアマチュア無線免許が必要ですが、半数は家族の影響で入部時にすでに免許を持っているのだとか。残りのメンバーは夏にある試験を受けて取得しています。2. 部室があるボックス棟の屋上にはアンテナが設置されています。

様々なコンテストで入賞を果たす！

約3年前、部員減で存続の危機にあった無線通信技術部。現部長である高田さんが部の立て直しに奮闘し、現在は12名にまで部員が増えました。ここ数年の活動では、実績作りのために様々なコンテストに出場。直近では、7時間での交信の数を競う「島根対全日本コンテスト」で県内1位に輝きました。「アマチュア無線をやっているのは社会人の方が多いので、交信を通じて交流が持てます。自然と人脈が広がっていくのがこの部の良さです」と高田さんは話します。今後は、アマチュア無線本来の目的である通信技術に関する研究にも力を入れていきたいと抱負を話してくれました。



OBとの交流で学びの視野も広がる！

島根医科大学時代からの歴史を持つ硬式庭球部。硬式庭球未経験者も多く、部員それぞれがモチベーションを維持できるよう練習メニューを組んでいます。OBとの繋がりが強く、年1回のOB戦には、全国から約30名が集まります。「中には医科大1期の先生も。現役の先生方と交流できる機会は貴重ですし、勉強や将来に関する助言もいただいている」と現キャプテンの辻さんは話します。10月には幹部交代を迎えるが、「次期キャプテンは未経験者ながら練習熱心な後輩です。上から引っ張るというよりは、一緒に全体のレベルを底上げしていってくれるのでは」と期待を込めます。



出雲キャンパス 硬式 庭球部

1. 部員は32名。3分の2が大学から硬式庭球を始めた部員です。練習は週に3回ですが、3月以降はコロナの影響で活動を休止、自主練をおこなっています。2. 例年は、年に3回の公式戦に加え、中国地方の大学との練習試合など積極的に活動しています。

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために
活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症に伴う 特例授業料免除事業を創設しました。

島根大学では、新型コロナウイルス感染症の影響による世帯収入や
アルバイト収入の激減により、日々の生活に困窮する学生を緊急的に
支援するために「新型コロナウイルス感染症に係る緊急学生一時金」
(1回3万円の給付、6月30日募金終了)を設置し、皆様から多くのご
寄附をいただきました。

今回、次の支援策として、支援基金の使途A区分に新型コロナウイルス
感染症の影響を受けて、授業料の納付が困難となり退学の危機
に瀕する学生のため、「新型コロナウイルス感染症に伴う特例授業
料免除事業」を創設しました。

退学の危機に瀕する学生を支援するため、引き続き、支援基金への
ご理解とご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。



支援基金についての詳細は支援基金HPをご覧いただくか、
支援基金パンフレットをご請求ください。
支援基金へご支援いただける場合は、支援基金HPから
手続きいただくか、支援基金パンフレットによりお願いいたします。
なお、パンフレットはお電話でのご請求も承っております。



支援基金HP

TEL 0852-32-6015
<https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただく仕組みです。
パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。※令和2年5月16日～令和2年6月30日までに年度内寄附累計額5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

個人からのご寄附	青砥智訓	浅田健太郎	荒木貴郎	池橋達雄	伊藤和子	岩下義明	鬼形和道	景山雅代	勝部毅弘	金山富美
北村祐二	熊澤 修	鷹田万州生	斉藤洋司	佐藤鲇美	篠塚英子	田部 恵	田辺義博	名取瑞樹	濱田 太	廣兼 敦
藤原高博	棟石 均	村田 将	山田利奈							廣瀬昌博

「新型コロナウイルス感染症に係る緊急学生一時金」へご寄附をいただいた皆さま

冠寄附

株式会社出雲村田製作所 コロナ支援金(新型コロナウイルス感染症に係る学生支援)
島根大學生物資源科学部同窓会 生物資源科学部同窓会基金(コロナ支援)

法人等からのご寄附

池田ぶどう農園 石見銀山建設株式会社 教育学部保体OBごさん会 株式会社島根銀行 島根大学柔道部卒業生会柔友会
島根大学医学部附属病院看護部 島根大学法文学部同窓会 鈴和地所株式会社 有限会社ストリーム 医療法人大学前の内科クリニック
有限会社友田大洋堂 従業員一同 有限会社友田大洋堂 美容室はいらさん フジキヨーボレーション株式会社 有限会社藤谷産業
有限会社フローリスト室崎 松江ロータリークラブ 会長 櫻井誠己 株式会社まるごう 川津店 有限会社ハウスメインテナンス ツチヤ

個人からのご寄附	青木 熟	青木修二	秋重幸邦	浅野佳子	芦矢敦子	足立文彦	荒瀬 榮	井川幹夫	池内泰成	石川達朗
石倉沙希乃	石原伊津美	意東純子	井原 孝	入江 純	岩下義明	岩峰代	岩田高明	岩成 敬	岩成秀彦	植田英夫
上津原雄一	上野典広	上野 誠	内田和樹	會下和宏	大田美穂	大瀧勝久	大谷 浩	大西香代子	大矢敬子	岡 明歩
奥村 稔	越智ゆり	鬼形和道	小幡美香	小村陽悦	加来洋一郎	景山修司	梶田康洋	春日邦宣	片岡祐俊	片岡佳美
加藤寿朗	加藤 洋	金山富美	鎌田健一郎	神谷 要	川路澄人	河添達也	河村洋子	木佐俊郎	吉川通彦	久保田康毅
熊澤 修	倉増伸二	桑原宏季	河野美江	児島千恵子	後藤達夫	小林祥泰	小林裕孝	坂本和博	坂本年功	佐々木一
佐貫文紀	澤 嘉弘	三瓶良和	篠塚英子	柴田広大	島津欣央	清水富紀子	清水盛弘	下中隆嗣	白原あゆみ	宍道 靖
杉原宏敦	須山弘一	高尾 彰	田口博之	多久和徹	竹田尚子	朔晦和郎	種田雅仁	手錢隆志	土肥香織	富澤芳亜
永井あけみ	永井慶彦	長岡素巳	中川 博	仲佐修一	長澤公洋	中塙紀子	永田まち子	中務 明	中村賢二	永井秀之
中村 豊	中村喜子	永森忠嗣	名取瑞樹	並河 徹	滑 純雄	成相有一	西木正照	西崎 緑	中村信一郎	中村新一郎
蜂谷卓士	服部夏鈴	浜田真理子	林 広樹	林 洋平	原 浩二	東川 豊	平井秀敏	平崎史世	野津知恵	萩谷 昇
福田誠司	藤谷昌司	古川明信	本田雄一	每熊浩一	増永二之	松井典子	松田克己	馬庭博範	廣兼 敦	福田勝久
三成拓亞	棟石 均	安友政男	矢野 潔	山崎征爾	山崎稀嗣	山代誠一	山田まさき	三浦 強	三浦ミナコ	水上慎之
李 樹庭	和田登志子							吉田 進	吉野直樹	吉見 頸

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015 (総務課 支援基金担当) <https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

※ご寄附をいただいた皆さまの中、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

編集後記

今号の「広報しまだい」特集1は、本学のアドバイザーとしてご活躍いただいているお二人と学長とのスペシャル鼎談でした。バイタリティーあふれるアドバイザーの方々のお話は、とても新鮮で興味深いものばかりでした。時に真剣に、時に笑いありのお話は、予定時間を超えてもなお白熱しましたが、時間を感じさせませんでした。誌面上の制約があり、すべてをご紹介できないのが残念です。

印象的だったのは、「変化を起こすことはとても怖い」、「大切な価値を残すために、変えられることは変えることが必要だ」という言葉です。大学を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。そのような時代だからこそ、本学における大切な価値を改めて考えたいと思います。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などを気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしています。

投稿先

こちらからもアクセスできます

〒690-8504

松江市西川津町1060

島根大学 広報戦略室

TEL.0852-32-6603

FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

HP <https://www.shimane-u.ac.jp>



ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場

で収穫・加工した「りんごジャム(1瓶)」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。

※応募締切/令和2年12月4日(金)必着



PRESENT



松江・浜田・境港を中心
日本一のメーカーをめざしています。

日新ホールディングス 株式会社
〒690-0887 島根県松江市殿町 383 山陰中央ビル 4F
TEL 0852-33-7830

NISSHIN GROUP WEBSITE
<https://www.nisshin.gr.jp>



GLOBAL

高機能治具で
モノづくり支援

しまだいOBも活躍中!

株式会社グローバル 出雲工場
出雲市小境町 1700番8 TEL.0853-67-9030
<http://www.gl-b.co.jp/>





応援します、この街の元気。
大和証券
Daiwa Securities
松江支店 電話 0852-27-7151
〒690-0003 松江市朝日町480の8
(SKYビル)

ーあしたへ、未来へー

地域創造企業

SHOWA

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。
<http://www.showa00.co.jp/>



おかげさまで35周年

建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事

株式会社 昭和測量設計事務所

あしたへ 未来へ 求人のお問い合わせは
【益田本社】島根県益田市高津四丁目14番6号 【浜田事務所】島根県浜田市治和町八32-11
TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573 【営業所】松江・川本

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。



みんなで
木を育もう!

山陰合同銀行

日本システム開発

〒690-0003
松江市朝日町480番地8
松江SKYビル3F
TEL:0852-28-7175
<https://www.nskeit.co.jp/>

こちらからもアクセスできます

多彩な業務で
エンジニアリングを
極めよう!

島大アーチ スッキリとした味わいで料理との相性も抜群!!
島根大学の芋焼酎 神在の里

生物資源科学部西砂丘農場で栽培された
サツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml)は化粧箱に入った2本セットもあります。
■神在の里の取り扱いお問い合わせは

島根大学生生活協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel0852-32-6242
<https://www.shimadai.coop/>



WE LOVE SUN-IN!

タウン情報 求人情報 ポスティング WEB etc.

楽しい街づくり
に貢献します

webは
コチラ!

www.merit-inc.com

株式会社メリット 松江事務所 〒690-0003
松江市吉原5-13-7 1991年3月 月曜～金曜 10:00～18:00
本社：島根県松江市吉原5-13-7 1991年3月 月曜～金曜 10:00～18:00
採用支援サービス・タウン情報誌の発行 求人情報サイト運営 広告代理業 他



広告募集

広報しまだいでは、企業・団体様等からの
広告を募集します。

島根大学企画広報課
TEL : 0852-32-6603
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

島根大学医学部附属病院広報誌

しろうさぎ

患者さん向けの
“役に立つ”情報満載！

WEB上でも読めます。詳しくはこちら▶

年4回発行



学生時代を、大後悔時代にしないために大交流だ。

プロフェッショナルセミナー

次世代・大人座談会

ローカルアクション展

大人向けセミナー

しまね19市町村リレーイベント

未来洞察大ワークショップ

技術コミュニティラボ座談会

就活セミナー & リアルトーク

インターンシップセミナー & リアルトーク



ZOOMで開催! 11月 7日(土) 8日(日)

情報はこちらから発信します

しまね産学官人材育成コンソーシアム
<https://www.allshimane.shimane-u.ac.jp/>



主催 しまね産学官人材育成コンソーシアム

共催 島根大学・島根県立大学・島根県立大学短期大学部・松江工業高等専門学校・島根県商工会議所連合会・島根県商工会連合会・島根県中小企業団体中央会・島根県経営者協会・島根経済同友会・島根県中小企業家同友会・島根県・ふるさと島根定住財団

協賛 島根県教育委員会・中海圏域就業支援連携事業推進協議会（松江市・米子市・安来市・境港市）

問い合わせ先/しまね大交流会実行委員会事務局（島根大学地域未来協創本部）TEL 0852-32-9814 MAIL iscrc@riko.shimane-u.ac.jp